



とっとり SDGs 企業認証 認証事業者申請内容



事業者名

大成工業株式会社

所在地

鳥取県米子市米原 6-15-37

代表者

代表取締役 三原 博之

業種

建設業

事業概要

- ・鳥取県西部における浄化槽の設計施工及び販売、維持管理
- ・上下水道管工事
- ・オリジナル商品 TSS 汚水処理施設の設計と全国及び海外への展開。

<2030 年に目指す姿>

創業以来生業として掲げている水処理の開発と販売を更にレベルアップさせ、地元県西部では上下水道工事及び排水処理の維持管理も含め、環境問題に取り組む企業として広く認知されるよう、企業活動を通して社会に貢献する企業になることを目指しています。

自社オリジナル製品である TSS 汚水処理施設は、日本全国及び海外への展開にさらに力を入れ、「6. 安全な水とトイレを世界中に」を軸とした衛生教育と女性雇用創出に貢献します。

また、従業員一人一人が環境問題に携わる社会人としての誇りを持ち、スキルを身に着け、働き甲斐のある職場環境を形成できるよう、ガバナンス体制を構築します。

<目指す姿の実現に向けた重点的な取組>

社会1：女性の活躍
社会8：社会配慮型商品・サービスの提供
社会10：地域社会への貢献
社会プラスワン：(世界への貢献)

経済10：人材育成・能力開発
経済プラスワン：(地域経済の活性化)

環境9：環境配慮型商品・サービスの提供
環境プラスワン：(世界への貢献)

＜重点的な取組推進時のインパクト（正の影響、負の影響）の分析・考察①＞

弊社オリジナル商品 TSS 污水处理施設は日本全国で展開しているが、現在特にインドで展開する JICA 事業を通じて、インドの SDGs 達成への貢献に力を入れており、そのインパクトに対して考察する。（日本国内においても同様のインパクトをもたらす点もある。）

◆女性の活躍（正／負の影響）

インドでは、伝統的及び社会的な背景から政治や一般市民の衛生意識が低い状況にある。一般に、このような伝統的及び社会的な要因が地域社会に根付いており、行動変容が必要であるため、学校、地域を巻き込んだ中長期的な衛生教育・啓発活動が必要になる。そのため、地域の女性を TSS の定期点検及び維持管理の要員として育成し、地域に根ざした適性管理の促進を目指す。本事業では、女性活躍の場を設けることで、副次的に地域女性のエンパワメントと雇用創出（ジェンダー対策）に寄与することも想定している。負の影響については、次項「社会配慮型商品・サービスの提供」に記載。

◆社会配慮型商品・サービスの提供（正／負の影響）

インドでは、都市部において集中型污水处理施設（下水道）の整備が進んでいるが、限られた地域のままである、本事業を実施することで、集中型に比べ時間やコスト面で手軽に設置ができ、維持管理が容易な分散型污水处理施設の普及が促進され、インド政府が主導している SBM（クリーンインド政策）などの対衛生問題の政策に寄与することができる。また、国内の高速道路やダム管理棟で使用されているように、電力を使うことなく処理可能なため、維持管理が容易なだけでなく、カーボンニュートラルにも貢献できている。

また、現地にはカースト制度等、宗教、伝統的な固有の文化に基づいて社会が運営されているため、女性の活躍も含めた本事業が現地の伝統文化へ悪影響を与えるリスクが想定される。本事業では、これまでカースト制度で特定の層が担ってきた公衆衛生や清掃の役割を、衛生教育プログラムを通じて、広く一般に普及することを想定しているため、当該プログラムの運営に当たっては、現地 NGO パートナーと協働して、その文化的な背景の理解と配慮を事業の中で取り入れることを目指している。

◆地域社会への貢献、地方経済の活性化（正／負の影響）

少子高齢化により益々地方の経済は疲弊していくことが予想され、現在外務省は技術を持った中小企業に対し、ODA による海外展開の支援を促進している。地元鳥取県において、途上国に貢献できる技術を持った中小零細企業に対し、様々な補助金を活用した海外展開や、コンサルタント等の外部委託について、弊社の経験を伝えている。一方で公的な補助金を活用した海外展開は、社内的な作業負荷は増加する一方で収益化までに時間を要するため、短期的な収益減少につながるリスクが想定される。海外展開においては、社内リソースの配置などに配慮をし、持続可能な形で事業を推進する計画としている。

<重点的な取組推進時のインパクト（正の影響、負の影響）の分析・考察②>

◆環境配慮型商品・サービスの提供（負の影響）

弊社オリジナル商品の TSS は一般の浄化槽、下水処理場と異なり、汚泥の堆積が非常に少ない点がメリットではあるが、それでも一定の汚泥が消化槽に堆積する。そのため、これらの汚泥は現地の法律に準拠した形で処理する必要があるが、途上国特有の順法意識の低さにより、法律に沿った汚泥処理がなされない可能性がある。よって、維持管理に当たっては、維持管理項目に「定期的な汚泥引き抜き」を加え、継続的に指導・周知する必要がある。

インパクト分析

取り組み内容	正の影響	負の影響
社会配慮型商品・サービスの提供、 環境配慮型商品・サービスの提供 (TSS の普及・導入)	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型污水处理施設の普及 ・インド政府が主導する対衛生問題の政策に寄与 ・カーボンニュートラルへの貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥発生及び汚泥の不適切な処理発生リスク ・現地の伝統文化へ悪影響リスク
女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生教育の普及 ・地域女性のエンパワメントと雇用創出(ジェンダー対策) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の伝統文化へ悪影響リスク
地域社会への貢献、地方経済の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・公的な補助金を活用した海外展開のノウハウの共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的な収益減リスク、作業負荷の増加

社会(1/2) : 大成工業株式会社

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
労働災害の防止	<p>【主な取組】 毎週行っている安全工程会議の中でヒヤリハットの報告を行い月毎の発生件数と項目分けを行い、その傾向を調査している。 安全衛生管理委員会を中心にその対策を検討し、労働災害発生の未然防止に努めている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R4年度、労働安全の社内研修を行う。 R6年にはヒヤリハット発生件数を年間1桁にする。 (現在年間24件)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 安全衛生管理委員会での対策を周知し、PDCAにより対策を強化していく。</p>
ハラスメントの防止	<p>【主な取組】 就業規則内で禁止規定を設け、共有している。ハラスメントを受けた従業員のための相談体制を整備している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R6年にハラスメント0とする。 (現在0件)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 年2回の無記名によるアンケート調査を行う。 ハラスメントの相談窓口を明確にし、組織の風通しが良い状態を保つ。</p>
女性の活躍	<p><KPI> 全従業員に対する女性の割合 全15名中3名(R3年度時点) 全管理職に対する女性管理職の割合 0%(R3年度時点)</p> <p>【主な取組】 女性管理職を育成するための研修・セミナーへの参加を推奨している。 (但し、現在参加希望数は0)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 全従業員に対する女性の割合 25%(R6年度時点) 女性管理職を1人以上育成する。(R6年度時点)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 現場作業員として女性が活躍できるような環境を整える。 女性管理職を育成するための研修・セミナーへの参加を推奨する。</p>
障がい者が働きやすい職場づくり	<p><KPI> 障がい者雇用者数 1人/従業員数 15人(R4年時点) (※雇用率 6% R4年時点)</p> <p>【主な取組】 障がい者を雇用し、リモート、フレックス制を導入。 車の免許を返納しているため、ご家族の送迎が無い場合は、役員や社員が送迎している。 現場での仕事がある場合も、社員同士で工夫し合い、送迎を行っている。 特定求職者雇用開発助成金をR4年9月より申請予定。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 障がい者雇用者数 1人(R6年時点)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 全従業員15名であるため、雇用者数を増やすというより、現在雇用している障がい者に仕事を長く続けてもらえるように、コミュニケーションを取り、環境を整備することに注力する。</p>
多様な人材の活躍	<p>【主な取組】 OJT、OFF-JTを社内にて確立させ、2017年キャリアアップ助成、2019年にトライアル雇用かつキャリアアップ助成を使い、各1人ずつ未経験者を正規雇用している。 再雇用の上限年齢を70歳までとしている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R6年度までに未経験者を一人以上正規雇用する。</p> <p>【目標達成に向けた取組】 今まで以上にOJT、OFF-JTによる社内教育を精査する。 業界未経験者、就職氷河期、高齢者、障がい者の受け入れを学ぶ勉強会に参加し、門戸を開く。</p>

社会(2/2) : 大成工業株式会社

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
多様な働き方の促進	<p>【主な取組】</p> <p>リモート勤務の許可、副業兼業を許可としている。 従業員全員が年1度の健康診断を100%受けている。 鳥取県知事と協会けんぽ鳥取支部長連盟の「社員の健康づくり宣言認定」を受けている。 時間単位、半日単位の年休取得を可としている。 有給休暇が取れない従業員には、意見を尊重した上で、あらかじめ時季を指定して取得させている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>R4 年度労働時間や休暇取得に関する相談窓口を設置する。 R4 年度鳥取県の社員の健康づくりメニューを実践し、ポイントを計算する。 R6 年度社員の有給取得率を50%以上とする。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>有給休暇を取得できない従業員に対して、面談を行い、取得を促す。所属している部署全体で問題を共有するようにする。</p>
労働者への人権配慮	<p>【主な取組】</p> <p>年齢、性別、障害、出自、宗教に関わらず、機会均等を確保している。 米子市建設業協議会主催の人権童話問題研修会に代表者が参加し、社内伝達している。 従業員の苦情/相談窓口をコンプライアンス規程に示している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>R4 年度、従業員からの苦情0にする。(R3 年度は0件、R5 年度以降も同様) R4 年度、法務省の My じんけん宣言をする。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>アンケート調査を実施し、現状を把握する。問題あれば改善する。 My じんけん宣言を社内に掲示する。</p>
社会配慮型商品・サービスの提供	<p>【主な取組】</p> <p>下水道の無い地域では、現在も単独浄化槽や汲み取りトイレを利用し、風呂、炊事排水を未処理で流している家庭が多くあり、今後の少子高齢化、人口減少を考えると過疎地や中山間地(鳥取県では平野部も)に下水の接続は難しい。弊社は浄化槽協会に属し、インフラの整っていない地域への啓発、浄化槽普及に努めている。 弊社オリジナルの TSS は無電力、無放流の特徴を生かし、環境省の補助事業でソロモン諸島、外務省 ODA でインドなど、途上国へ展開しており、ワークショップを行う等、衛生教育も行っている。その維持管理に女性を雇用することにより、女性が安心して使えるトイレにもなっている。 日本トイレ研究所に協賛し、子供たちへの衛生教育や災害時のトイレ対策に協力している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>2030 年には鳥取県西部において下水道の無い地域での未処理水の垂れ流し家庭を0にする。 R4 年度、合併浄化槽の申請工事数 80 件以上(県内 No.1)とする。 (R5 年度以降も同様)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>浄化槽協会に所属し、情報を共有し合い、浄化槽の普及に努める。 TSS は全国への代理店網を拡充する。外部コンサルタント、JETRO 等と協働し、海外展開を進める。</p>
地産地消	<p>【主な取組】</p> <p>県内工事における下請け業者は県内の業者を積極的に採用している。 海外を含め全国展開しているため、鳥取県内だけでなく、現地の資材、労務を使用することも地産地消と考えている。資材においては現地企業から調達するように努力しているが、要求する品質に達しない、現場への運送距離が長い価格が高くなる等の問題があり、実現できていないものもある。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>2030 年には特許の無い資材に関しては、現地で資材を調達できるようにする。 HP等で近い商品を製造している企業をリストアップし、商談する。(R4 年度中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>地元企業のマッチング商談会等があれば積極的に参加する。</p>
地域社会への貢献	<p>【主な取組】</p> <p>浄化槽協会に登録し、鳥取県の浄化槽普及発展に取り組んでいる。 代表は山陰インド協会の理事を務め、インドでの弊社施設に視察誘致するなど、地元企業のインドへの関心を持ってもらうように努めている。 取締役がとっとり SDGs 伝道師を務めており、鳥取県の SDGs 普及に取り組んでいる。 昨年は、中学校の授業に出向き SDGs に取り組む企業として報告したり、別の中学校2校での文化祭での SDGs の取り組みに協力した。 昨年 10 月には東京国際フォーラムで開催された外務省のグローバルフェスタに登壇し、地方企業と ODA として取り組みを紹介した。 今年 3 月には日本在外企業協会の SDGs フォーラム内で地方創生と SDGs として取り組みを紹介した。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>2030 年には鳥取県西部において下水道の無い地域での未処理水の垂れ流し家庭を0にする。 R4 年度、合併浄化槽の申請工事数 80 件以上(県内 No.1)とする。 (R5 年度以降も同様)</p> <p>2030 年までに技術力のある地元企業の海外展開を支援する。 (現在1社インドへの海外展開を協力企業として支援中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>地元企業への SDGs 導入勉強会等を設ける。 海外展開に躊躇している企業に対して、JICA、JETRO、コンサルタント等の活用方法を伝えていく。</p>
プラスワン【世界への貢献】	<p>【主な取組】</p> <p>代表は NPO 法人太平洋協力機構の理事を務め、水処理の技術提供等、南太平洋島嶼国の発展に寄与している。 今年1月トンガ王国の噴火の際には、弊社より支援金を送っている。 昨年 11 月 JETRO 主催の太平洋島経済フォーラムにて、取り組みを報告、現在パラオの大臣との協議を進めている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>2030 年には南太平洋島嶼国に弊社污水处理施設を導入し、ビジネス展開する。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>JETRO や太平洋協力機構と協力し、弊社の得意とする水処理技術を島嶼国に提供していく。</p>

経済(1/2) : 大成工業株式会社

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
事業継続計画(BCP)の策定	<p>【主な取組】</p> <p>今年3月、鳥取県BCPサポートセンターの支援を活用し、専門家の助言を受けながら「事業継続計画」の基本編を作成し、全従業員に周知している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>自然災害編、新型感染症編も策定する。(R4年度中)年に1度、事業継続計画の見直しを行い更新する。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>鳥取県版企業BCPモデルを参考にし、社内協議の上、策定する。</p> <p>県の主催するワークショップ、セミナーに積極的に参加する。</p>
セキュリティ対策	<p>【主な取組】</p> <p>セキュリティ対策ソフトを弊社ネットワークを使用する全PC、携帯電話に導入し、必要に応じて随時アップデートを行っている。</p> <p>個人情報保護ポリシーを明確にしている。</p> <p>SECOMの防犯システムを導入している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>R4年度、PC等のウイルス対策を徹底し、社内情報の漏洩を0件とする。(R5年度も同様)</p> <p>R4年度中に個人情報の取り扱い手順を策定し、また建物に出入りする者のセキュリティ上のルール整備をする。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>定期的に従業員の使用するデバイスを確認し、セキュリティソフトの適正使用を促す。</p> <p>セキュリティソフトを随時アップデートし、常に最新の状態を保つ。</p> <p>個人情報の取り扱い手順を策定する。</p>
法令順守の取組の徹底	<p>【主な取組】</p> <p>コンプライアンス規程を作成し、全従業員に周知、共有している。</p> <p>コンプライアンス委員会を相談窓口とし設置している。</p> <p>週一回の会議の中で、コンプライアンス違反の早期発見に努めている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>R4年度コンプライアンス違反を0にする。(R5年度以降も同様)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>委員会メンバーを外部研修に積極的に参加させ、社内向け伝達研修を行う。</p>
情報公開	<p>【主な取組】</p> <p>HPにて弊社の概要、取り組み、メディアでの紹介等を公開している。</p> <p>SDGsに対するページも作成し、弊社の取り組むゴールを公表している。</p> <p>東京商工リサーチのエラブルに情報を公開している。</p> <p>環境省の実証試験(ETV)を受け、実証済み技術として結果を公開している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>求職者に対する情報もHPを通し、公開していく。(R4年度中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>役員会の中で公開する情報の範囲を協議、また、他社の動向も調査する。</p>
後継者の確保	<p>【主な取組】</p> <p>リーダー、管理職育成の勉強会などに出席を希望する従業員を参加させている。</p> <p>BCP基本編により人的リソース不足のガイドラインを策定している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>R6年までに人的リソース不足に対するガイドラインに沿った対応を社内で徹底する。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>参加を希望する従業員にはセミナー等勉強会への参加を積極的に促す。</p>

経済(2/2) : 大成工業株式会社

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
コロナなどの市場変化を見据えた対応	<p>【主な取組】 一昨年より密にならないアウトドアアクティビティが注目され始め、キャンプ場や別荘の排水処理への需要が増えているため、アウトドアアクティビティへのPRに注力している。</p> <p>全国で営業展開をしているため、県外出張が多いが、コロナの影響で例年のような営業活動が出来なかった。コロナ後も何らかのウイルス等で制限された場合を想定し、出張などの移動を極力減らし、オンラインにより全国的に営業活動を行える環境を構築している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 現場対応以外の営業や打合せにはオンラインを活用し、県外出張を令和元年度の75%にする。(R6年度中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 別荘地が多く、弊社実績も多い北関東と代理店と協働でPRしていく。(既にキャンプ場への増設工事が決まっている。)</p>
自社以外の経営資源活用	<p>【主な取組】 商品の開発時に鳥取大学と帯広畜産大学と共同研究を行い、そのデータをカタログに使用している。核となる商品は帝人・前田工織と連携し覚書を交わし、開発している。</p> <p>海外展開に於いて、JICAのスキームを活用し、協力のもと、現地セミナーを活用している。</p> <p>外部コンサルタントを活用し、インドのNGOと協働で事業を進めている。</p> <p>JETROが主催する海外向けオンラインセミナーを活用している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R5年度中には、インドでのNGOと協働し、事業を確立させる。 (R4年6月、インドデリーにパイロットプラントを建設、R4年9月、インド全国から要人を招待し、セミナーを行うことは決定している。)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 JICA、コンサルタント、インドNGOと情報を共有し合う。</p>
デジタル化による生産性向上	<p>【主な取組】 携帯電話は全て会社支給とし、内線電話として外線を繋ぐことができるようにし、顧客を待たせることなく、ワンストップで担当者に繋ぐことができている。</p> <p>打合せは極力オンラインで行い、全国(特に弊社の場合は地方が多いため、一度東京に行ってから、九州、北陸、東北に行くことになる。)へ移動することなく、営業活動を行える環境を構築している。</p> <p>設備工事の設計、見積、請求を簡素化できるデジタルツールを導入している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 現場対応以外の営業や打合せにはオンラインを活用し、県外出張を令和元年度の75%にする。(R6年度中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 Teams等のコミュニケーションツールを更に活用し、海外出張中やリモートワークでも隔たりなく仕事ができるようにする。</p>
雇用の維持・拡大	<p>【主な取組】 厚生労働省のトライアル雇用を活用し、未経験者への雇用を促進し、社内でのOJT、Off-JTを確立し、社内キャリアアップ助成が得られる体制を作っている。</p> <p>従業員と積極的にコミュニケーションを図り、現在10年以上離職者0を続けている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R4年度、離職者を0にする。 (R5年度以降も同様) R6年度までに未経験者を一人以上正規雇用する。</p> <p>【目標達成に向けた取組】 現在確立しているOJT、Off-JTを精査する。 ハラスメントの相談窓口を明確にし、組織の風通しが良い状態を保つ。</p>
人材育成・能力開発	<p>【主な取組】 未経験者のスキルアップのため、現場作業に必要な免許や資格の取得を奨励し、費用を会社で負担しており、現在現場作業員は全員が何らかの資格、免許を取得している。</p> <p>合銀経営セミナーや商工会議所の経営、人材育成セミナー、また建設業のための安全管理研修等に積極的に役員・従業員が参加している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R4年度、現場作業員は資格、免許取得を100%とする。(R5年度以降も同様)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 今後も未経験で入社した社員に対して、必要な資格・免許は会社が負担してスキルアップさせる。 建設キャリアアップシステムを活用する。</p>
プラスワン【地域経済の活性化】	<p>【主な取組】 R3年8月、SDGs、ESG投資に精通したコンサルタントを招いて、地元金融機関や企業、NPO法人を対象に勉強会を開催した。</p> <p>鳥取県観光連盟様より鳥取県に修学旅行を誘致する際、SDGsに取り組む鳥取県の企業として海外での取り組みを生徒たちに話してもらえないかとの打診を受けている(企画段階)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 2030年までに技術力のある地元企業の海外展開を支援する。 (現在県内企業1社の海外展開を協力企業として支援中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 世界の動向に精通したコンサルタントと地方企業を繋ぎ、「17.パートナーシップで目標を達成しよう」への活動をしていく。</p> <p>BOP研究会やその他の会合で登壇する場合は、鳥取県がSDGs先進県であることもPRする。</p>

環境(1/2) : 大成工業株式会社

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
気候変動リスク／環境負荷リスク・機会の分析・対策		
自然環境の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】 天候の悪化により、工期や資材輸送に遅れが出る。 地震、水害による建屋、設備、在庫の損壊、従業員の負傷、流通網の遮断。</p> <p>【分析に基づく主な取組】 事業継続計画を策定し、対応手順を明確にしている。 リソース別に障害レベルに応じた対策を策定している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 鳥取県版企業事業継続計画の自然災害編を参考にし、社内協議の上、策定する。(令和4年度)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 県の主催するワークショップ、セミナーに積極的に参加する。</p>
社会・制度の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】 流行病により従業員の欠勤、社屋消毒完了までの出社不可、県外移動の制限。</p> <p>【分析に基づく主な取組】 従業員の連絡体制を整備。 浄化槽協会を通して協業他社との協定。 営業、打合せのためのオンライン環境の整備。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 鳥取県版企業事業継続計画の新型感染症編を参考にし、社内協議の上、策定する。(令和4年度)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 県の主催するワークショップ、セミナーに積極的に参加する。</p>
自社の事業活動が引き起こす影響	<p>【リスク・機会の分析】 現場に出向くため車での移動が多く、また資材の全国への輸送があり、CO2 排出が多いため、地球温暖化等気候変動の一因になっている。</p> <p>【分析に基づく主な取組】 営業車は全てハイブリッドに転換、その他の車も5年毎に低燃費車に乗り換えている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 社内燃料削減については環境4と同じ。 HP等で現在使用している商品と近い商品を製造している企業を全国でリストアップし、商談する。(R4年度中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 今後も毎月の使用ガソリン量を把握し、燃費の良い車に乗り換えを行っていく。 引き続き、資材製造元のリストを増やす。</p>

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
カーボンニュートラル		
<省エネ> 燃料消費量の削減	<p><KPI> CO2 排出量 69.8t-CO2/年(R3年9月時点)</p> <p>【主な取組】 営業車は全てハイブリッドに転換、その他の車も約5年毎に低燃費車に乗り換えている。 毎月の使用ガソリン量を管理担当者が把握している。 パイロット事業によりカーボンニュートラルの専門家に弊社にて来て調査していただいたが、これ以上特にできることは無いだろうということだった。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> CO2 排出量 69.6t-CO2/年(R4年度) CO2 排出量 69.4t-CO2/年(R5年度) CO2 排出量 69.2t-CO2/年(R6年度)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 今後も毎月の使用ガソリン量を把握し、燃費の良い車に乗り換えを行っていく。</p>
<省エネ> 電力消費量の削減	<p><KPI> CO2 排出量 5.6t-CO2/年(R3年9月時点)</p> <p>【主な取組】 エアコンは消費電力の少ないものにほぼ交換済み。 電灯はLEDにほぼ交換済み。 毎月の電力使用量を把握している。 パイロット事業によりカーボンニュートラルの専門家に弊社にて来て調査していただいたが、これ以上特にできることは無いだろうということだった。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> CO2 排出量 5.4t-CO2/年(R4年度) CO2 排出量 5.2t-CO2/年(R5年度) CO2 排出量 5.0t-CO2/年(R6年度)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 残っている古いエアコン(1台)を新型に交換する。 今後も毎月の使用電力を把握する。</p>
<創エネ> 再生可能エネルギーの導入	<p><KPI> 再エネ発電量 8.7%(R2/10-R3/9時点)</p> <p>【主な取組】 太陽光発電を屋上に設置している。 パイロット事業によりカーボンニュートラルの専門家に弊社にて来て調査いただき、現在計画している太陽光パネルの増設へのアドバイスをいただいた。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 再エネ発電量 9%(R4年度) 再エネ発電量 10%(R5年度) 再エネ発電量 11%(R6年度)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 屋上に設置している太陽光発電のパネルをR4年度中に増やす。(現在設置業者と交渉中)</p>

環境(2/2) : 大成工業株式会社

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
廃棄物の削減	<p><KPI> 総廃棄物発生量 31.5t/年 (R2/9/21-R3/9/20 時点)</p> <p>【主な取組】 施工現場単位で3R活動を行っている。 社内の発生量を把握している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 総廃棄物発生量 31.0t/年(R4年度) 総廃棄物発生量 29.5t/年(R5年度) 総廃棄物発生量 29.0t/年(R6年度)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 発生量を把握し、減量に努める。 3R活動(特にリサイクル率を上げる)を徹底し、弊社に合った無駄のない仕組みを構築する。</p>
水資源の適正な管理	<p>【主な取組】 井戸ポンプを敷地内2カ所に設置し、外周の洗浄、植物への水やり、社用車の洗車に使用している。</p> <p>水道使用量を把握し、削減に努めている。 パイロット事業によりカーボンニュートラルの専門家から水道光熱費削減について弊社に来て直接アドバイスをいただいたが、これ以上特にできることは無いだろうということだった。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R4年度前年度95%に削減していく。 R5年度以降も同様に前年比95%に削減していく。</p> <p>【目標達成に向けた取組】 水道使用量を把握、全社員に毎月の使用量を周知する。 SDGs推進委員会が中心となりアンケートを行い、井戸ポンプの積極的な使用方法について検討する。</p>
環境配慮型商品・サービスの提供	<p>【主な取組】 無動力無電力処理が可能な污水处理施設を開発し、全国の高速道路、ダム管理棟、世界遺産等、500カ所以上に設置、海外では環境省の事業でソロモン諸島、外務省のODAでインドに設置している。 炊事・風呂排水を未処理で流している家庭に対して、補助金を使った浄化槽の設置を促し、工事、維持管理を行っている。 工場・医療排水処理の保守点検、地下水飲料化施設の保守点検を行っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R4年度、弊社オリジナル商品を国内で年間20カ所以上設置する。 R4年度中にインドでJICAとセミナーを行い、R5年度中にビジネスモデルを策定する。</p> <p>2030年には鳥取県西部において下水道の無い地域での未処理水の垂れ流し家庭を0にする。 R4年度、合併浄化槽の申請工事数80件以上(県内No.1)とする。 (R5年度以降も同様)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 弊社独自にチラシを作成し、浄化槽の有効性を各家庭に訴え、普及を促進する。</p>
環境面での社会貢献	<p>【主な取組】 汲み取り便槽や単独浄化槽から合併浄化槽への転換を米子市が補助金を増額し推奨しているが、今ひとつ各家庭に周知されていない。チラシを作って配布するなど各家庭に積極的に周知し、申請数及び施工実績は米子市でNo.1となっている。浄化槽協会に入会し、地域の浄化槽維持管理技術の向上に努めている。 日本トイレ研究所に加盟し、トイレの衛生向上に努めている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 2030年には鳥取県西部において下水道の無い地域での未処理水の垂れ流し家庭を0にする。 R4年度、合併浄化槽の申請工事数80件以上(県内No.1)とする。 (R5年度以降も同様)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 弊社独自にチラシを作成し、浄化槽の有効性を各家庭に訴え、普及を促進する。</p>
プラスワン【世界への貢献】	<p>【主な取組】 JICAスキームによりインドにてTSSをガンジス川流域の公衆トイレとムザファルナガルの大学の学生寮に設置。(今まではどちらもセプティックタンクの後、側溝に垂れ流しで、汚泥の処理や蚊の発生に悩まされていた。) 現地NPOや大学と協働しモニタリングを行っている。 コロナの影響で使用が減り、モニタリングが滞っていたが、4月後半にプロジェクトメンバーが渡航し、正常に動作していることを確認した。7月には雨季による冠水の恐れがあるため、側溝を設置する予定になっている。 インド政府はトイレ建屋に重点を置き、污水处理に対して理解が薄かったため、トイレ周辺の環境を更に悪化させる要因に繋がっている。この状態は過去の日本、または先進国と同様であり、必ず污水处理に対する関心は高まるものと思われる。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 R5年度中にビジネスモデルを策定する。 2030年に向け、「6、安全な水とトイレを世界中に」を目標に弊社商品を普及する。</p> <p>【目標達成に向けた取組】 R4年7月、インドデリーにパイロットプラントを建設。 R4年9月、インド全国から要人を招待し、污水处理の重要性を含め、セミナーを行う。 JICA、JETRO、外務省のスキームを活用しながら、海外に弊社商品を展開する。</p>